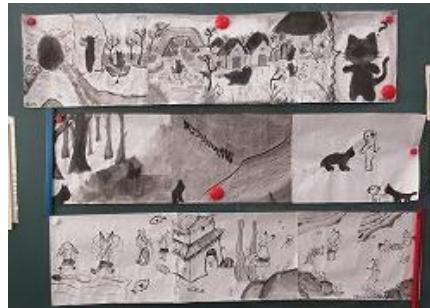




1年生の技術の授業は、木工でした。生活を便利にするための棚類を制作しています。板材を切り出してパーツを作り、釘で打ち付けて組み立てていました。仕上げにヤスリがけを行いますが、今年から新たに導入した工具が電動サンダーです。これまで紙やすりでの手作業でしたが、電動サンダーを使うことで作業効率が一気に上がりました。また、仕上がりもとても綺麗になりました。生徒の技量では、切断面が斜めになっていたり、組み立てたときに小さな段差ができたりしますが、電動サンダーで見事なまでに滑らかになります。質感や触り心地がよくなって、生徒も笑顔を浮かべて満足そうでした。



2年生の美術は、絵巻物の作成です。和紙に水墨画で描いていきます。絵巻物は、物語が背景にないと描けませんが、既存の物語を流用するのではなく、完全オリジナルの物語を考えるところから始まります。ワークシートには、



主人公や粗筋などをメモできるようになっていますが、多くの生徒は物語を作るところでかなり悩んでいました。黒板には、卒業した先輩たちの作品が参考として提示されていましたので、完成品のイメージは理解できるのですが、物語は自分で考えなければならないところが壁となっていました。「今年はうま年だから、主人公は馬！」と早々に決定できる生徒もいれば、教科書やタブレットから発想を得ようとして時間ばかりが過ぎていく生徒もあります。物語を作るには、設定が大事ですので、ここは十分時間をかけてよいところです。

1年生の学年掲示板には、「馬力」と書かれています。午年にちなんでの掲示です。先生方の想いとして、活力にあふれ、体力を高めて日々を過ごしてほしいという生徒たちへの願いが込められているでしょう。ところで、馬力とは、どのくらいの力なのでしょうか。まさしく、馬の力を単位としているわけですが、仕事率の計量単位として定義されているものです。馬力には、ヤード・ポンド法による英馬力とメートル法による仏馬力があ



りますが、日本で採用しているのは仏馬力の方で、1馬力は 735.5 ワットです。ちなみに、人間が瞬間的に発揮する仕事率は 1 馬力で、継続的に発揮できる仕事率は 0.14 馬力と言われています。また、馬が馬車を引くなどの継続的な仕事率は 1 馬力とされています。話は少し飛躍しますが、鉄腕アトムは 10 万馬力です。新幹線のぞみ号ですら、2 万 3000 馬力ですから、鉄腕アトムはさすが科学の子といわれるだけあります。